

2012春 国際産学官連携シンポジウム in Keio 大学の知財・技術移転部門の 今後の自立のあり方を考える

2012年 **3月2日(金)** 13:00~17:00 (12:30開場)

参加無料

同時通訳あり

慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール

2002年2月、小泉元首相は知財立国宣言をした。その後、政府による支援のもとで、日本の多くの大学は、特許等知財の創出・活用の基盤整備を進めた。その結果、大学による特許出願数は増大し、技術移転活動も拡大した。しかし、日米の技術移転収入を比較すると、日本は先行する米国にまだまだ大きな開きがある。また、大学発ベンチャー活動も、往時の活況を呈しているとは言い難い。今後、日本の大学の知財・技術移転部門は、どのように自立を考えるべきであろうか? 「科学技術駆動型のイノベーション創出」という日本の成長戦略に、大学が果たすべき役割は極めて大きい。そのような大きな視点の中で、欧米の専門家の経験を聞きながら、日本の大学の知財・技術移転部門の今後のあり方を探る。

プログラム

13:00~13:10 **開会挨拶**

慶應義塾常任理事 眞壁 利明

13:10~13:20 **慶應知的資産賞表彰**

13:20~13:40 **来賓挨拶**

文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長 里見 朋香 氏
 経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課長 進藤 秀夫 氏

13:40~15:00 **基調講演** 80分

スピーカー:

① Dr. Ashley J. Stevens

(Lecturer, Senior Research Associate, ITEC,
 School of Management, Boston University)

昨年度の米国AUTM会長。15年間ボストン大学の技術移転部門のトップとして成果の拡大に大きく貢献。ハーバード大学関連のがん研究所の技術移転部門トップやバイオ系企業等で多様な経験を有する。

② Dr. Kevin Edward Cullen

(Chief Executive Officer, New South Innovations Pty
 Limited, University of New South Wales)

直近では、英国グラスゴー大学の研究・事業部門のトップとして技術移転を推進。特に大学の知識・技術の社会還元の新たな評価手法の開発者として名高い。欧米の技術移転機関において、役員として活躍。P&G社における企業実務の経験も豊富。

15:00~15:15 **休憩**

15:15~17:00 **パネルディスカッション** 105分

「大学の知財・技術移転部門の今後の自立のあり方を考える」

パネリスト:

① Dr. Ashley J. Stevens

② Dr. Kevin Edward Cullen

③ 三木 俊克 氏

(独立行政法人 工業所有権研修館 理事長)

④ 正城 敏博 氏

(大阪大学 産学連携本部 総合企画推進部長 兼 知的財産部長)

⑤ 伊藤 伸 氏

(東京農工大学 産学官連携・知的財産センター 教授)

⑥ 山中 直明 氏

(慶應義塾大学 理工学部 教授)

モデレーター:

慶應義塾大学

研究連携推進本部 副本部長 羽鳥 賢一

17:00 **閉会**

申込方法

web参加登録フォーム http://www.rcp.keio.ac.jp/event/20120302_01.html にてお申し込みください。

[FAXでお申し込みの場合は、氏名、所属、連絡先(住所・電話番号・FAX番号・メールアドレス)をご記入の上 03-5440-0558 に送信ください。]

申込締切: 2012年2月24日(金) ※定員になり次第締切とさせていただきます。

主催/慶應義塾大学研究連携推進本部 <http://www.rcp.keio.ac.jp/>

問合せ先/国際シンポジウム担当 TEL: 03-5427-1678

※本シンポジウムの主催者は、本申し込みにかかる個人情報を厳重に管理し、主催・共催セミナー・知的財産情報等の案内・管理・運営のために利用し、法的要請があった場合を除き、他の目的には使用しません。 ※プログラム等は、変更される場合があります。

